

編集者のことば

本号には論文3編をはじめとして、平成14年3月をもって一応の節目を迎えることとなった共同研究Ⅱのファイナル・ミーティング（3月5日都立大学91年館にて実施）における基調講演および報告、さらに平成13年11月9日、都民ホールにて開催された都市研究所主催・第14回公開講演会の講演記録が収められている。

論文3編の著者およびタイトルは以下のとおりである。まず高見淳史が「自動車利用削減の観点からみた商業開発コントロール制度に関する考察—イングランドとアメリカ・オレゴン州の制度を例に—」と題して、イングランドおよびオレゴン州における商業開発のあり方に焦点を合わせ、自動車利用の削減という課題と重ねながら、その主体、手法・制度のあり方を考察している。なお本論文は、新投稿規定による審査付き論文第1号である。玉川英則・江原信博「東京圏における人口安定地区の抽出とその年齢構成的特性」は、地域のサスティナビリティを支える条件とは何かという問題意識を基礎として、東京圏（1都4県）を対象にその全体的な人口変動を検証し、人口安定地区の抽出を試みるとともに、その諸要因を分析したものである。恵比壽美和・萩原清子「土壌汚染問題における環境リスクの管理手法—都市域の汚染源管理のあり方—」は、従来の「汚染者負担原則」や現行制度では打開しえない現代の土壌汚染問題にいかに対応すべきかという視点から、諸外国の取り組みも参考にしつつ、様々に考えられる管理手法の可能性・有効性を考察したものである。

他方、共同研究Ⅱのファイナル・ミーティングは、4カ年に渡って継続されてきた「循環型社会とまちづくりに関する総合的研究」の総括的研究会であり、「持続可能な都市の『かたち』と『しくみ』」と題して開催されたものである。本号には、都市研究所と研究交流協定を結んでいる国連大学高等研究所のピーター・マルコテリオ研究員による基調講演をはじめ、学内外の4人のパネリストによる研究報告ならびに討論の記録が収められている。パネリストの報告内容は、都市のエネルギ問題、土地利用コントロールを通じた自動車利用削減、都市の社会的持続可能性、物質循環と経済循環、と様々な論点を包含するものとなっている。

都市研究所の公開講演会の記録は、昨秋「都市とIT—その諸相と展望—」と題して開催された講演会の記録である。3人の講演者の講演内容は、自治体における地理情報システムの活用の現状と可能性、ITと企業活動および都市との関係、メディアと文明という視点から見たときにITが都市に何をもたらすか、というテーマが示唆するようにITをめぐる多様な論点を幅広く取り扱った内容となっている。

さて、本号に収められている諸論文および複数の講演・報告は、いずれも、上に紹介したその概要にも窺われるように、今日まさに内外の諸都市において生起している諸問題とこれに対する打開の試み、また様々な都市現象を素材として、これらを分析・考察した研究成果にほかならない。本号は特集を組んでの編集方式を採用してはいないが、あえて総括的に大きなテーマを設定するとすれば、我々が今現在生活する都市の諸条件をどう評価し、またいかなる手法と制度によって改めていくべきなのか、いわば21世紀の都市が土台とすべき理念と進むべき方向は何か、というテーマを設定することができるのではないだろうか。ひとつひとつの論文、講演、報告が我々に投げかけるメッセージは重く、これを真正面から受け止めたい。

2002年3月

羽 貝 正 美